

Prius

取扱説明書

-設置と配線編-

HITACHI
Inspire the Next

パソコンを使えるようにしよう

1

いろいろな使い方をするために

2

技術情報

3

Prius Note

マニュアルはよく読み、保管してください。

- 製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
- このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

1

はじめに

マニュアルを確かめよう

このたびは日立のシステム装置（以下、パソコン）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

次の内容と各マニュアルの内容をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

マニュアルの構成について

このパソコンには、使い始める準備から使いこなすまでの手引き、マニュアルが付いています。マニュアルには、本書のような紙マニュアルと、画面で見る電子マニュアルがあります。どちらにも役に立つ便利な情報が書かれています。大いに活用して快適なパソコンライフをお楽しみください。

紙マニュアル

はじめにお読みください - パソコンの準備 -



●『Prius 取扱説明書 設置と配線編』（本書）

同じ内容が
電子マニュアルにも
あります

動画機能を使ってみよう！

●『Prius 取扱説明書 エンターテインメント編』



テレビ機能付き
モデルにのみ、
紙マニュアルが
添付されています

パソコンを使ってみよう！



●『Prius 取扱説明書 パソコン使用編』

同じ内容が
電子マニュアルにも
あります

機能を一覧して見てみよう！

●『Prius 製品仕様』



パソコンで困ったときは！



●『Prius 取扱説明書 サポート&サービス編』

電子マニュアル

マニュアルの情報は電子マニュアルにあり、必要な情報を画面ですばやく探すことができます。



パソコンの接続を確かめるなら



パソコンとソフトの概要を知るなら



はじめてパソコンに触るなら



アプリケーションを楽しむなら



インターネット・メールを始めるなら



テレビを見たり DVD を楽しむなら



もっとパソコンを使うなら



電子マニュアルを開こう

電子マニュアルは、このパソコンのマニュアルを画面で読めるようにしたものです。パソコンが使える状態になったら、電子マニュアルを開いてみましょう。

電子マニュアルを開くには

画面上(デスクトップ)のアイコンをダブルクリックして

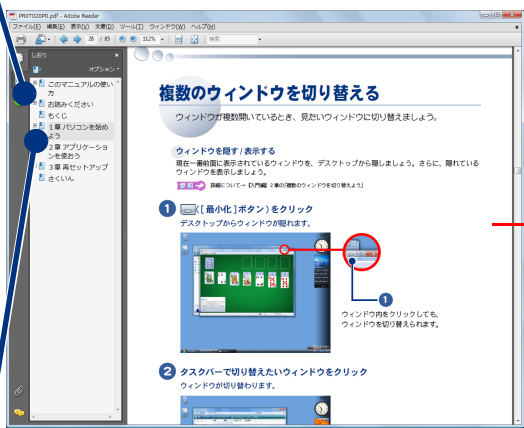


① マウスを電子マニュアル名の上に重ねる

② クリックする

Prius 取扱説明書 活用百科

③ [+] をクリックして [-] にして、下の項目を表示する



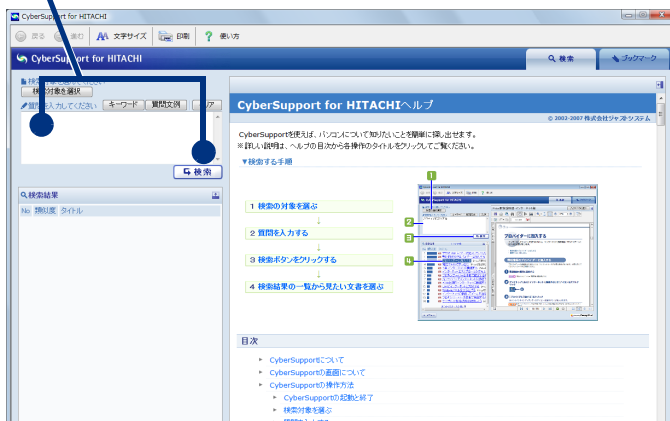
電子マニュアル画面

④ マウスで項目を選びクリックし、電子マニュアルを読む

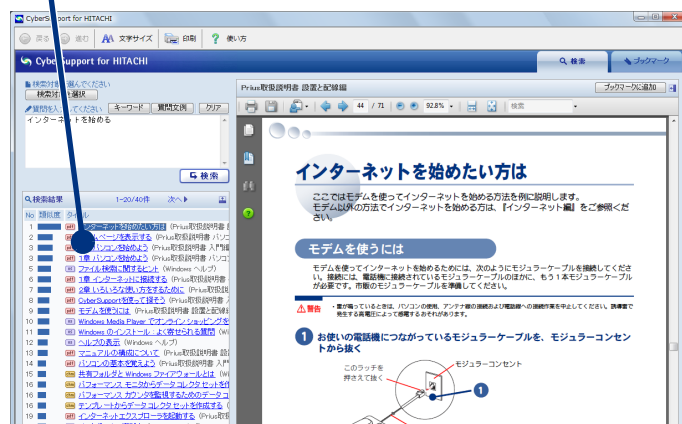
電子マニュアルの内容を検索するには

① デスクトップのをダブルクリックする

② 知りたい内容を入力し、検索をクリック






③ 読みたい項目をクリック



● Adobe Reader で表示中の文書ファイルは、CyberSupport で検索すると正しく表示されません。
Adobe Reader を終了し、再度 CyberSupport で検索・表示してください。

お使いになる前に

マニュアルの表記について

 重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
 ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイス、パソコンの用語を解説します。
 参照	参照先を示します。
CD/DVD ドライブ	DVD スーパーマルチドライブなどの光学式ディスクドライブを表記します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。
Windows、Windows Vista	Microsoft® Windows Vista™ Home Premium または、Microsoft® Windows Vista™ Home Basic を表記します。
テレビ機能付きモデル	地上デジタルチューナーユニットが同梱されている機種を表記します。

- ・ マニュアルで使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、省略している場合があります。
- ・ URL、お問い合わせ先、画面などは、マニュアル制作時点のものです。

保証書について

- ・ 保証書は、所定事項が記入されたものをお受け取りになり、大切に保管しておいてください。
- ・ 保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容に基づいて無料で修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、Prius 集中修理センターにご相談ください。詳しくは、『サポート&サービス編』3章の「パソコンのサポートについて」をご参照ください。

重要なお知らせ

- ・ 本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
- ・ 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- ・ 本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

パソコンを安全にお使いいただくために

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- ・ 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
 - ・ 装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

シンボルについて

安全に関する注意事項は、次に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。



これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。



これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



【表記例1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例2】分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。



【表記例3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡ください。

自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を越えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

■ 設置時のご注意

⚠ 警告



日本国以外での使用

本パソコンは日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより、国外で使用すると火災や感電の原因になります。また他国には独自の安全規格が定められており本パソコンは適合していません。



使用する電源

使用できる電源は交流 100V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさによって内部が破損したり過熱・劣化して感電や火災の原因になります。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



医用電気機器の近くでの使用

医療機関の屋内にいるときは、医療機関側が使用を認めた区域以外では、電源を切ってください。また医用電気機器を使用している家庭内で、医用電気機器の近くでは電源を切ることをお勧めします。



ほこりの除去について

パソコンの周囲は、ほこりを吸わないようにこまめに清掃してください。パソコンの冷却用ファンユニットが目詰まりをおこし、過熱、発煙や故障の原因になります。



周辺機器の増設や接続

周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類をパソコンから外してください。また、マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。



湿気やほこりの多い場所での使用について

- ・ 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。
- ・ 本体内部にほこりが溜まることによって、精密部分の冷却を妨げ、故障ややけどの原因になります。

⚠ 注意



不安定な場所での使用について

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。



信号ケーブルについて

- ・ ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。足をひっかけると、けがや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ・ ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。

■ 使用前のご注意

⚠ 警告



ACアダプターの取り扱い

ACアダプターは、次のことに注意してお取り扱いください。火災、感電もしくは発熱によるやけどの原因になることがあります。

- ・絶対に分解しない。
- ・浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所で使用しない。
- ・水に濡らしたり、濡れた手で触れたりしない。
- ・布団の上や中など熱がこもるような環境で使用したり、放置したりしない。
- ・上に物を置かない。
- ・必ず付属のコードセット（電源コード）を使用する。
- ・本パソコン以外の機器に使用しない。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、発火や感電の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。



付属品の使用

ACアダプターやバッテリーパックなどは、必ず付属または指定のものをご使用ください。それ以外のものを使用すると、電圧、最大出力電流や+-の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。



電源コードの取り扱い

電源コードは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したりショートや一部断線で、過熱して感電や火災の原因になります。

- ・ものを載せない。
- ・引っ張らない。
- ・押しつけない。
- ・折り曲げない。
- ・加工しない。
- ・熱器具のそばで使わない。
- ・束ねない。
- ・ほかのパソコンに使用しない。



梱包用ポリ袋について

パソコンの梱包用エアークャップなどのポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると窒息するおそれがあります。

■ 使用時のご注意

⚠ 警告



異常な熱さ、煙、異常音、異臭
万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、バッテリーパックを取り外してください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りにはものを置かないでください。



航空機内での使用
航空機内で使用するときには、航空会社の指示に従ってください。航空機の計測器などに悪影響をおよぼすおそれがあります。



バッテリーパックの充電
バッテリーパックを充電するときには必ず、このパソコンに入れて充電してください。ほかの方法では、電圧、充電時間などが異なる場合があります。破裂・発火などの原因になります。



揮発性液体の近くでの使用
マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、パソコンの近くで使わないでください。パソコンの中に入ると引火すると火災の原因になります。



心臓ペースメーカーを装着時の使用
心臓ペースメーカーの装着部分から22cm以上離してご使用ください。電波により心臓ペースメーカーの動作に悪影響を与えるおそれがあります。



通気孔について
通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。
・通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。
・本体底面がふさがれるような布、じゅうたんなどの上には置かないでください。本体内部への通気が損なわれ、発煙、発火ややけどなどの原因になります。
・本体側面にものを置いたり、立てかけたりしないでください。本体内部への通気が損なわれ、発煙、発火ややけどなどの原因になります。



電話線への接続と使用
雷が鳴っているときは、パソコンの使用、アンテナ線の接続および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

⚠ 注意



小さなお子様などの使用時
小さなお子様などがお使いになるときは、必ず大人の方の見守りが必要です。トレイやパネルに指を挟んだりして、けがの原因になります。



眼精疲労について
ディスプレイを見る作業を行うときは、作業場を300～1000ルクスの明るさにしてください。また、連続作業するときには、1時間に10分から15分程度の休息をとってください。長時間ディスプレイを見続けると、眼に疲労が蓄積されます。



トレイの開閉
CD/DVDドライブのトレイはディスク（CD、DVD）を装着、取り出しするとき以外は必ず閉じて使用してください。手などがぶつかったり指を挟んだりして、けがの原因になります。また塵埃の浸入による故障の原因にもなります。



ヘッドホンやイヤホン
ヘッドホンやイヤホン使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。



光学式マウスについて

マウスの底面から発せられる赤い光を直接見ると、眼を痛める場合があります。赤い光を直接見ないでください。



低温やけど

パソコン使用中は底面が熱くなります。ひざの上などに直接のせて使用しないでください。低温やけどのおそれがあります。また、装置の一部が熱くなる場合がありますが、装置動作に支障をきたすものではありません。

注意



磁石について

パソコンに磁石、磁気ネックレスなどの強い磁気を発生するものを近づけないでください。HDD 装置のデータが壊れるなど故障の原因になります。



液晶ディスプレイ部の開閉

開閉は、液晶ディスプレイ部の中央上側を持ち行ってください。とくに閉じるときは、カチッとロックするまでゆっくりと倒してください。このようにしないと、液晶ディスプレイ部の破損の原因になります。

■ 保管時のご注意

警告



カバン、袋などへの収納について

パソコンをカバン、袋などに収納するときは、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると、発煙、もしくは発熱によるやけどの原因になることがあります。

- ・ パソコンの電源を切った状態で収納する。
- ・ カバン、袋などにパソコンが収納された状態ではバッテリーを充電しない。



電池の取り扱い

電池は次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。

- ・ 電池の+、-を正しく入れる。
- ・ 火の中に入れない。
- ・ ショートさせたり、分解、加熱したりしない。
- ・ 指定以外の電池は使用しない。
- ・ 電池の+、一部に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない。
- ・ 電池を金属製のピンセットなどでつかまない。



パソコンの電源 OFF について

パソコンの電源を切っても、一部の回路には通電しています。休暇や旅行などで長時間ご使用にならないときは、必ず AC アダプターの電源プラグを抜き、バッテリーパックを取り外してください。万一、部品破損時には火災の原因になります。



電池の保管

- ・ 電池を保管する場合は、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないで電池を保管すると、端子間どうしが接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。
- ・ 電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、気道を確保しながら直ちに医師にご相談ください。



電池の廃棄

取り外した電池を廃棄するときは、お買い求め先に相談していただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。



バッテリーパックの取り扱い

バッテリーパックは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。

- ・電池の＋端子間をショートさせない。
- ・火中に投入したり、60℃以上に加熱したりしない。
- ・落下などの強い衝撃を与えない。
- ・外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
- ・濡れた布で金属部分を拭かない。
- ・水に濡らしたり、濡れた手で触れたりしない。
- ・分解・改造しない。
- ・火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
- ・指定外のバッテリーパックを使用しない。
- ・液漏れしている場合には、素手で触れない。万一付着した場合は、流水で洗い流す。
- ・カバン、袋などにパソコンが収納された状態ではバッテリーを充電しない。
- ・本パソコン以外の機器に使用しない。



バッテリーパックの保管

バッテリーパックを保管する場合は、パソコンから取り外し、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないでバッテリーパックを保管すると、端子間が接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。



バッテリーパックの持ち運び

バッテリーパックを持ち運ぶときはポリ袋などに入れてください。ほかの金属に触れ、端子間がショートし、過熱・発火・破裂などを引きおこし、火災やけがの原因になります。

■ 作業時のご注意



警告



モデム部分への接触

内部に触れる必要があるときは、モジュラーケーブル（電話線）を抜いてください。呼び出し（ベル）着信時および雷が鳴っているとき感電するおそれがあります。



メモリーボードカバーについて

作業終了後は、必ずメモリーボードカバーを取り付けてください。万が一の部品破損時、発煙、発火、火災の原因になります。



電話線への接続と使用

雷が鳴っているときは、パソコンの使用および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。



ケースカバーの取り外し

- ・ケースカバーを取り外すときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には、通電しているため、思わぬ接触など作業不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。また、バッテリーパックを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。
- ・内部にネジなどの異物を入れないようにしてください。発煙、発火の原因になります。
- ・パソコンを起動するときは、必ずカバーを閉じてから起動してください。
- ・メモリーボードソケット以外には触れないでください。

注意



部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。約30分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。



金属など端面への接触

パソコンの移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。

注意



ボードの取り扱いについて

ボードを取り扱う場合は、静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないで、コネクタ部などの電気部品に触れると壊れるおそれがあります。



LAN コネクタについて

LAN コネクタには、LAN ケーブルを接続してください。LAN ケーブル以外のケーブルを接続すると、故障するおそれがあります。

一般的なご注意

警告



修理・改造・分解

本書の指示に従って行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。火災や感電、やけどの原因になります。
特に電源ユニット内部は高電圧部が数多くあり、万一さわると危険です。



装置上に物を置く

花びん、植木鉢など水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属物を置かないでください。内部に入った場合、そのまま使用すると、感電や発煙、発火の原因になります。



装置内部への異物の混入

通気孔などから内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



電源プラグの抜き差し

- ・電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コード部分を引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。
- ・休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。
- ・電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因になります。



落下などによる衝撃

落下させたり、ぶつけるなど過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

- ・ 電源プラグは、根元までしっかり差し込む。
- ・ 電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込む。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから、差し込む。
- ・ ぐらぐらしないコンセントを使用する。



バッテリーパックの液漏れ

誤った取り扱いをすると、バッテリーパックから液漏れすることがあります。この液体には絶対に触れないでください。もし液体が手についたときは、流水で洗い流してください。万一、口に入ったときは水でゆすぎ、目に入ったときは流水で洗い流してから、医師の診断を受けてください。

⚠ 注意



接続端子への接触

USB コネクターなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。発煙したり接触不良などにより故障の原因になります。



液晶ディスプレイ部の破損

液晶ディスプレイ部はガラスでできています。液晶ディスプレイ部が破損したとき、ガラスの破片には直接触れないでください。けがをするおそれがあります。



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、パソコン本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因になります。

注意



バックアップについて

ハードディスク装置のデータなどの重要な内容は必ず補助記憶装置にバックアップを取ってください。ハードディスク装置が壊れると、データなどがすべてなくなってしまいます。



モジュラーケーブルの接続について

モジュラーケーブルは、2線式をご使用ください。故障の原因になります。2線式以外のケーブルの使用により発生した不具合については保証いたしません。

注意



電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

- ・ テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- ・ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- ・ コンセントを別にする。



バッテリーパックの廃棄

使用済みバッテリーパックは、希少資源（Li-ion）の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。

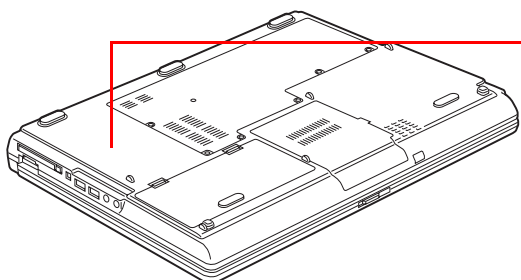


パソコンの廃棄

本製品を廃棄する場合は、適切にリサイクル処理をお願いします。「資源の有効な利用の促進に関する法律（通称：改正リサイクル法）」にもとづき、パソコン製造事業者である弊社は、お客さまのご依頼にもとづく事業者（法人所有）向けのパソコンの回収リサイクルサービスと、ご家庭（個人所有）向けの回収リサイクルサービスを提供しています。当該サービスでは回収リサイクルの効果を向上させるなど、法律の趣旨に的確に対応していますので、ご利用ください。

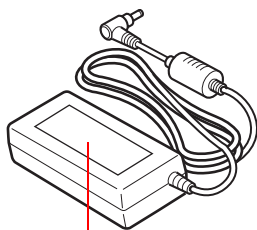
警告ラベル

パソコン



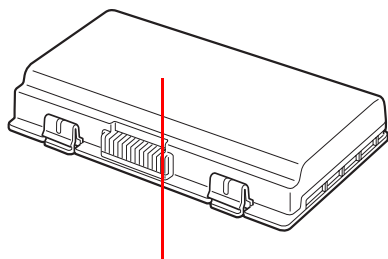
<p>警告</p> <p>感電、火災の原因になることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・絶対に分解しないでください。・ACアダプタには指定されたものをご使用ください。	<p>注意</p> <p>高温火傷の恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・故障診断を直接部に付けた状態で使用しないでください。
---	---

ACアダプター



<p>CAUTION</p> <p>To prevent fire or electric shock.</p> <ul style="list-style-type: none">• Dry location use only.• Use for specified equipment only. <p>注意</p> <p>感電、火災の原因になることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・湿った場所では使用しないでください。・指定の機器以外には使用しないでください。
--

バッテリーパック



<p>警告</p> <ul style="list-style-type: none">・端子をショートさせないでください。・水や火の中に投入したり、加熱したりしないでください。・分解、改造、落下したり、衝撃を与えたりしないでください。・高温場所(60°C以上)で放置しないでください。・指定の充電器以外のものを使用しないでください。・もしも、バッテリー電解液がもれ、体に付着した場合は大量の水で洗い流してください。
--



もくじ

はじめに

マニュアルを確かめよう	
マニュアルの構成について	
電子マニュアルを開こう	2
お使いになる前に	4
マニュアルの表記について	4
保証書について	4
重要なお知らせ	4
パソコンを安全にお使いいただくために	5
警告ラベル	14
もくじ	15

1章 パソコンを使えるようにしよう

同梱品を確かめよう	20
同梱品一覧表で確認しよう	20
保証書を確認しよう	20
各部の名前を知っておこう	21
パソコン正面・左側面	21
パソコン背面・右側面	22
インジケータランプの見方	22
ワンタッチキーの機能	24
キーボード	25
リモコン	28
接続しよう	30
置き場所や姿勢について	30
接続しよう	31
リモコンに電池を入れよう	33
電源を入れよう	34

2章 いろいろな使い方をするために

マウスを使いたい方は	38
コンセントのない場所でパソコンを使いたい方は	39
バッテリーパックの取り付け方	39
バッテリーパックの充電のしかた	39
バッテリーパックの取り外し方	40
インターネットを始めたい方は	42
モデムを使うには	42
テレビを見たい方は(テレビ機能付きモデルのみ)	44
アンテナ線と接続する	44
地上デジタルチューナーユニットにアンテナ線を接続する	45
B-CAS カードを取り付ける	46
電話回線をモデムに接続する	46
ほかの周辺機器を使うときは	47
ディスクを使うときは	48
CD/DVD ドライブのディスクの入れ方/取り出し方	48
ディスクの強制取り出し	49
FD の入れ方/取り出し方	49
メモリーボードを取り付けるときは	51
増設作業時の注意点	51
メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた	52
取り付け手順	52
取り外し手順	53

3章 技術情報

ドライブの仕様	56
DVD スーパーマルチドライブ(DVD ± R 2層書き込み対応)の仕様	56
メモリーボードの仕様	58
バッテリーパックの仕様	59
有寿命部品一覧	60



オプション情報.....	61
さくいん.....	63





1

1章 パソコンを使えるようにしよう

この章では、パソコンを使えるようにするための準備やパソコン各部の名前、働きについて説明します。

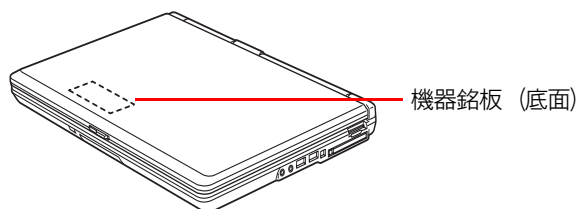
- >> ・ 同梱品を確かめよう (P.20)
- >> ・ 各部の名前を知っておこう (P.21)
- >> ・ 接続しよう (P.30)
- >> ・ 電源を入れよう (P.34)

同梱品を確かめよう

箱を開けたら、まず箱の中に入っている同梱品がすべてそろっていることを『同梱品一覧表』で確認しましょう。万一不足があるときは、安心コールセンターにお問い合わせください。

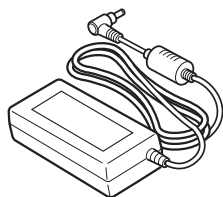
同梱品一覧表で確認しよう

★パソコン

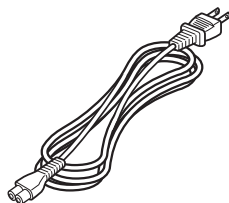


- ※ ヒント** ● パソコンの形名を確認するには
パソコンの底面にある機器銘板に、形名や製造番号が記載されています。
機器銘板の取り付け位置は、変更される場合があります。ご了承ください。

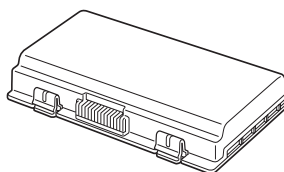
★ AC アダプター



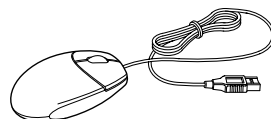
★電源コード



★バッテリーパック



★マウス



- ▲ 重要** ● テレビ機能付きモデルには、別途、地上デジタルチューナーユニット、USB ケーブル、B-CAS カード、リモコン、単 3 形アルカリ電池 (2 個、リモコン用) などが同梱されています。

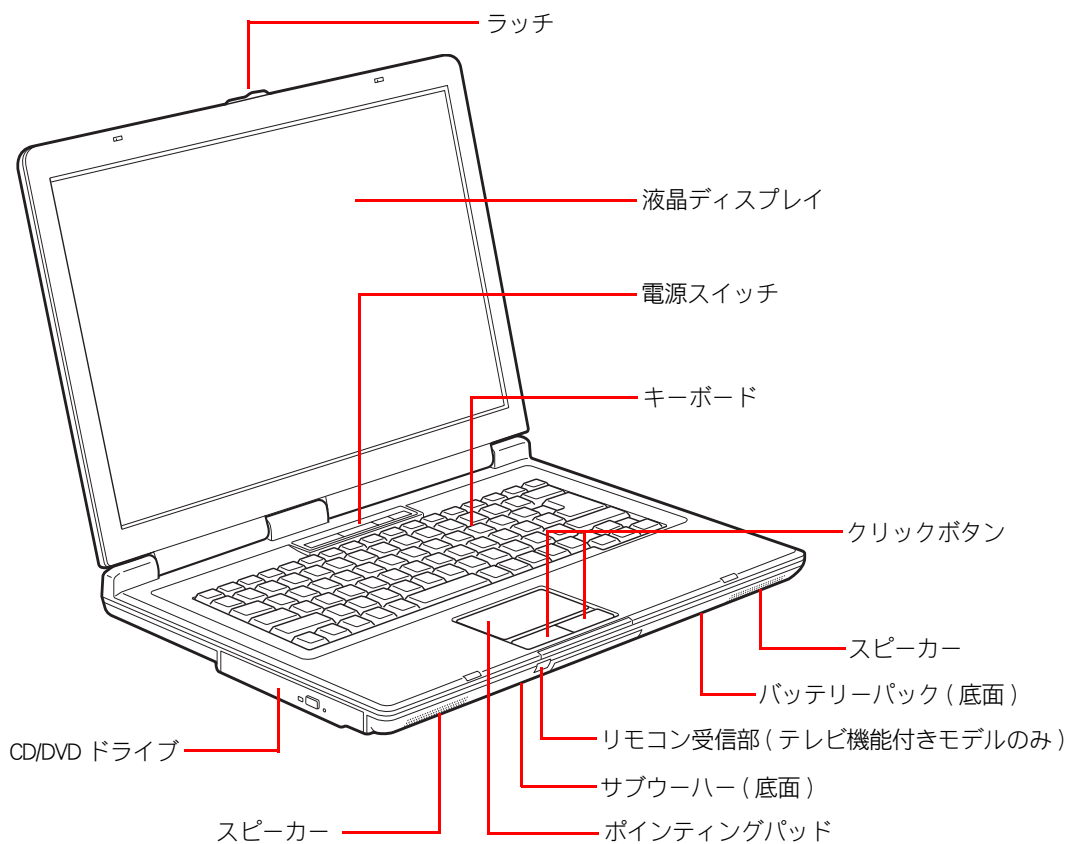
保証書を確認しよう

保証書

保証書は、パソコンの箱にはり付けてあります。大切に保管してください。
パソコンの製造番号と保証書の番号が、同じであることをご確認ください。万一違う場合は、すぐに安心コールセンターにお問い合わせください。

各部の名前を知っておこう

パソコン正面・左側面



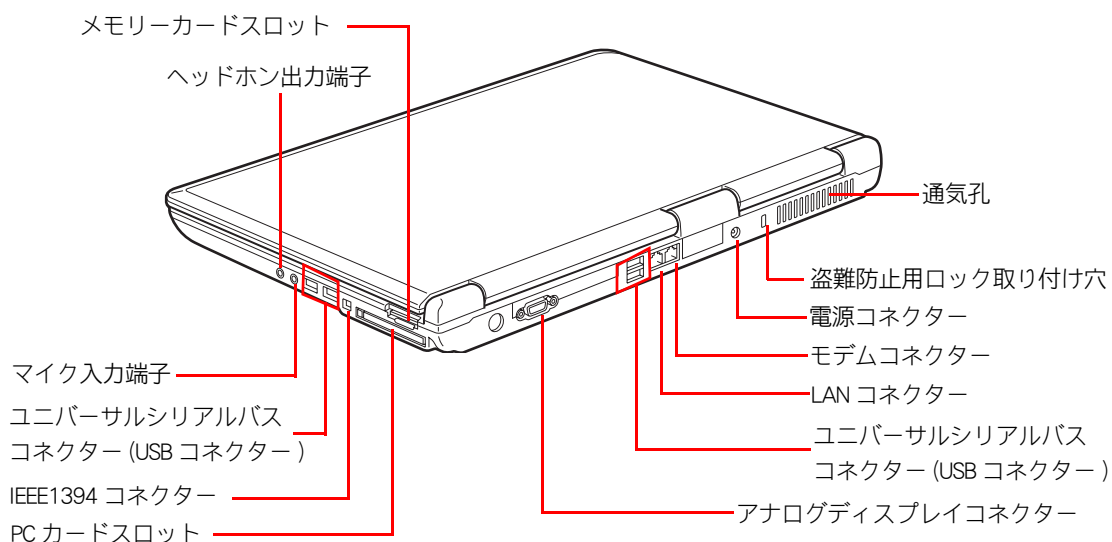
重要

● サブウーハーの搭載は、機種により異なります。搭載されているかどうかは、『Prius 製品仕様』よりご確認ください。

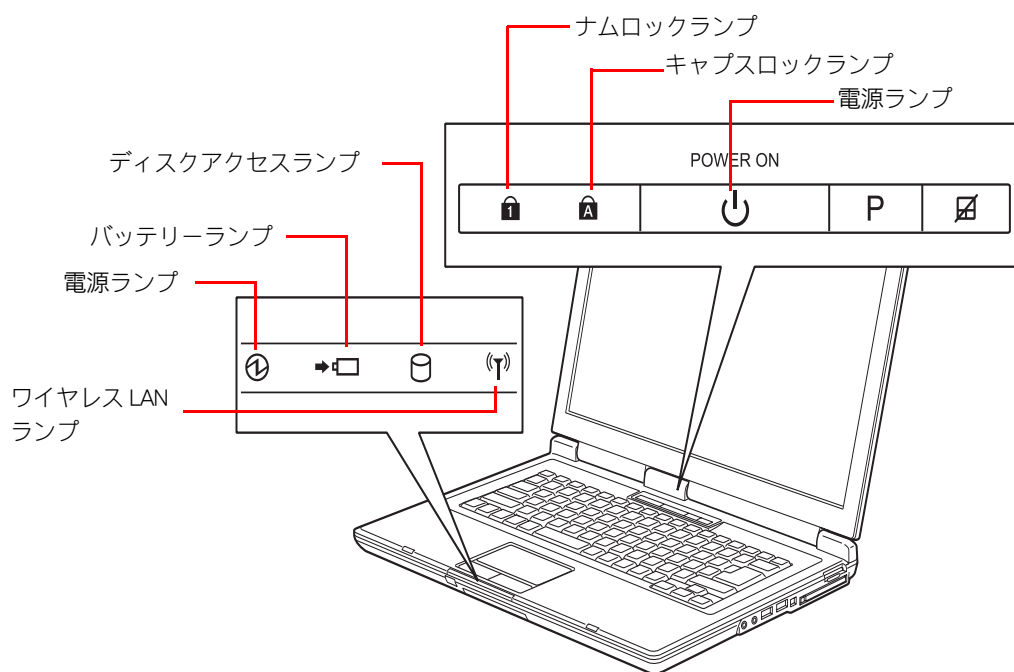
1

パソコンを上手に使うよう

パソコン背面・右側面



インジケータランプの見方



電源ランプ

点灯：パソコン電源 ON 状態
点滅：スリープ状態
消灯：パソコン電源 OFF 状態／休止状態

バッテリーランプ

点灯：バッテリーパック充電中
点滅：バッテリーの残量が少ない状態
消灯：満充電状態

ワイヤレス LAN ランプ

点灯：ワイヤレス LAN が通信可能な状態

※ヒント ● ワイヤレス LAN 通信機能の ON/OFF は、[Fn]+[F2] キーを押すことで切り替えられます。

ディスクアクセスランプ

点滅：HDD、CD/DVD ドライブのデータ読み書き中

ナムロックランプ

[Fn] キーを押しながら [Ins] キーを押すと、切り替えられる
点灯：キーボードの青色の数字が入力できる

参照 → ナムロックについて → 【入門編】 1 章の「キーを押してみよう」

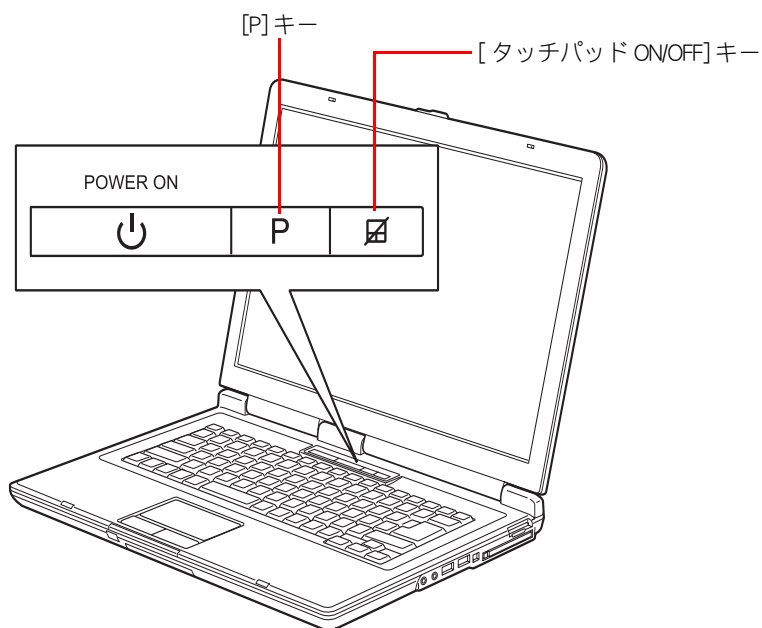
キャプスロックランプ

[Shift] キーを押しながら [Caps Lock] キーを押すと、切り替えられる
点灯：大文字のアルファベットが入力可能
消灯：小文字のアルファベットが入力可能

参照 → キャプスロックについて → 【入門編】 1 章の「キーを押してみよう」

ワンタッチキーの機能

ボタンを押すだけで、設定したアプリケーションを起動したり、ポインティングパッドの機能を ON/OFF と切り替えることができるキーです。



[P]キー

カラーエンハンス機能を ON/OFF して、画面の色合いを変更できます。

[タッチパッド ON/OFF]キー

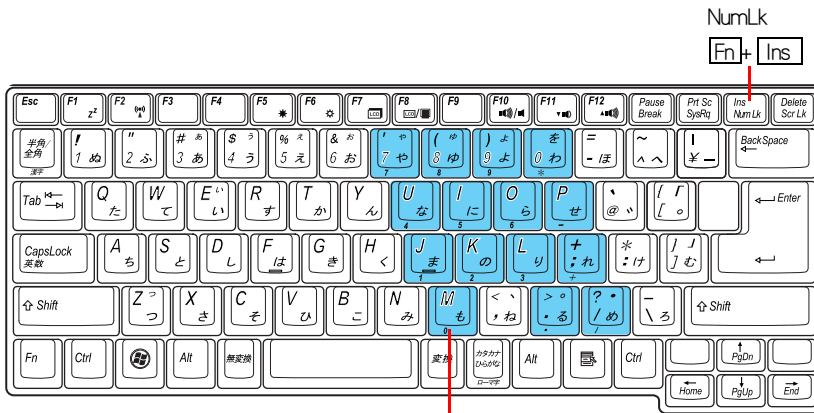
マウスを使うときなどに、ポインティングパッドの機能を OFF にします。または、ポインティングパッドの機能を再び ON にします。

重要 ● 同時に複数のワンタッチキーを押すと、誤動作する場合があります。

※ ヒント ● Windows 上のアプリケーションの操作を行うためには、アプリケーションにフォーカスがある（アクティブになる）必要があります。
● ご購入時は、[P]キーにはカラーエンハンス機能が設定されていますが、[P]キーで起動させるアプリケーションは変更できます。

参照 → [P]キーの変更方法 → 『パソコン応用編』1章の「[P]キー（ワンタッチキー）を設定する」

キーボード



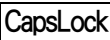



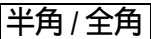

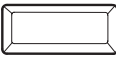




テンキー






キーの手に印刷されている数字などが入力できる








キー	使い方
F1 ~ F12	ファンクションキーといます。アプリケーションソフトなどで、特定の機能を割り当てて使います。
↑ ↓ ← →	カーソルキーといます。カーソルをキーの矢印の方向に動かすときに使います。
Ctrl Alt Fn Shift	ほかのキーと組み合わせて使います。
文字キー	文字を入力するときに使います。
テンキー	数字を入力するときに使います。[NumLk]キーを押すと入力できます。





※ヒント ● **[NumLk]**は、[Fn]キーを押しながら[Ins]キーを押します。

キー	使い方
Backspace	カーソルの前（左）の文字を削除するときに使います。
Delete	カーソルの後（右）の文字を削除するときに使います。
Ins	文字の入力の方法を、挿入モードか上書きモードに切り替えます。
Enter	日本語入力の確定や改行などに使います。
Esc	操作を取り消すときなどに使います。
Tab	タブを挿入するときなどに使います。

キー	使い方
	[Shift] キーを押しながらこのキーを押すと、標準では英大文字の入力モードになります。
	テンキーで数字を入力するモードに切り替えます。[Fn] キーを押しながら [Ins] キーを押します。
	画面表示の制御に使います。[Fn] キーを押しながら [Delete] キーを押します。
	日本語入力で読みを漢字に変換します。
	日本語入力をオン/オフするときに使います。
	日本語入力のときに、無変換モードにします。
 (スペース)	1文字分のスペース（空白）を入力したり、読みを漢字に変換するときに使います。
	カーソルを行の先頭に移動するときに使います。
	カーソルを行の末尾に移動するときに使います。
 	ページをスクロールするときに使います。

 **ヒント** ● 、、、は、[Fn] キーを押しながら [←]、[→]、[↑]、[↓] キーを押します。

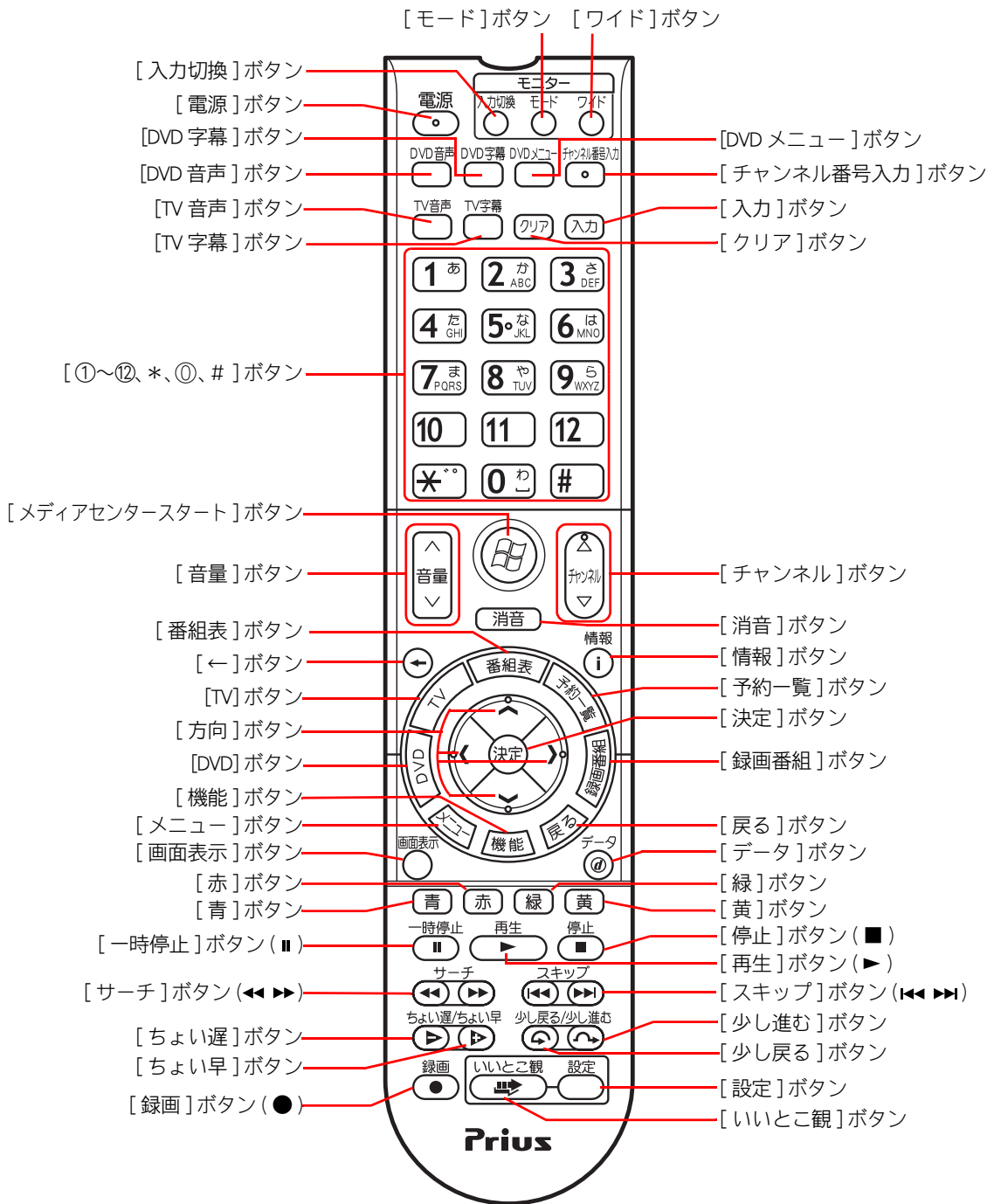
キー	使い方
	Windows キーといいます。スタートメニューを表示させるときに使います。
	プログラムキーといいます。ポインティングパッドまたはマウスを右クリックしたときと同じ働きをします。
	パソコンをスリープ状態にするときに使います。[Fn] キーを押しながら [F1] キーを押します。
	ワイヤレス LAN 通信機能の ON/OFF を切り替えるときに使います。[Fn] キーを押しながら [F2] キーを押します。
	液晶ディスプレイの明るさを暗くするときに使います。[Fn] キーを押しながら [F5] キーを押します。
	液晶ディスプレイの明るさを明るくするときに使います。[Fn] キーを押しながら [F6] キーを押します。
	バックライトの ON / OFF を切り替えるときに使います。[Fn] キーを押しながら [F7] キーを押します。キーを押すたびに ON / OFF が切り替わります。

キー	使い方
	表示先を切り替えるときに使います。[Fn] キーを押しながら [F8] キーを押します。キーを押すたびに、表示先 (パソコン、外付けディスプレイ) が切り替わります。
	音を消すときに使います。もう一度押すと元に戻ります。[Fn] キーを押しながら [F10] キーを押します。
	スピーカーの音量を下げるときに使います。[Fn] キーを押しながら [F11] キーを押します。
	スピーカーの音量を上げるときに使います。[Fn] キーを押しながら [F12] キーを押します。

参照 → キーボードの使い方について → 【入門編】1章の「キーボードを使おう」

リモコン

重要 ● テレビ機能付きモデルにのみ、同梱されています。



項目	説明
[電源]ボタン	パソコンの電源をONにします。パソコン起動中は、スリープ状態または休止状態にします。
[入力切換]ボタン	使用できません。
[DVD 音声]ボタン	DVD の音声の言語を切り替えます。
[DVD 字幕]ボタン	DVD の字幕のON/OFFを切り替えます。
[DVD メニュー]ボタン	DVD 再生時にDVDのメインメニューを表示します。
[クリア]ボタン	チャプター番号、トラック番号の指定を取り消します。
[入力]ボタン	CD/DVD再生時に[①]～[⑨]ボタンで指定したチャプター番号、トラック番号に進みます。
[①～⑫、*、⑩、#]ボタン	CD/DVD再生時に[①]～[⑨]ボタンでチャプター番号、トラック番号を指定します。
[メディアセンタースタート]ボタン	Windows Media Centerを起動します。
[音量]ボタン	音量を上げたり、下げたりします。
[消音]ボタン	スピーカーの音を消します/元に戻します。
[←]ボタン	画面上の[戻る]ボタンをクリックしたときと同じ働きをします。ひとつ前の画面に戻ります。
[情報]ボタン	動作中の機能に応じたメニューを選択するウィンドウが表示されます。
[決定]ボタン	方向ボタンで選んだ項目などを決定します。
[方向]ボタン	カーソルを上下左右に移動します。
[一時停止]ボタン	⏸ 一時停止します。
[再生]ボタン	▶ 再生します。
[停止]ボタン	■ 停止します。
[サーチ]ボタン	⏮ ⏭ 早送り/早戻しします。
[スキップ]ボタン	⏮ ⏭ 次/前のチャプターやトラックに移動します。

重要

- 説明のないボタンは、搭載ソフトウェアにより機能が異なります。テレビの操作については『エンターテインメント編』をご参照ください。
- リモコンは本パソコン専用です。ほかのパソコンでの使用はできません。

ヒント

- [消音]ボタン
有効になっていると、Windowsを起動したときも音は鳴らなくなります。

参照

- [電源]ボタンのスリープ状態/休止状態の設定方法について→『パソコン応用編』2章の「すぐに節電する」

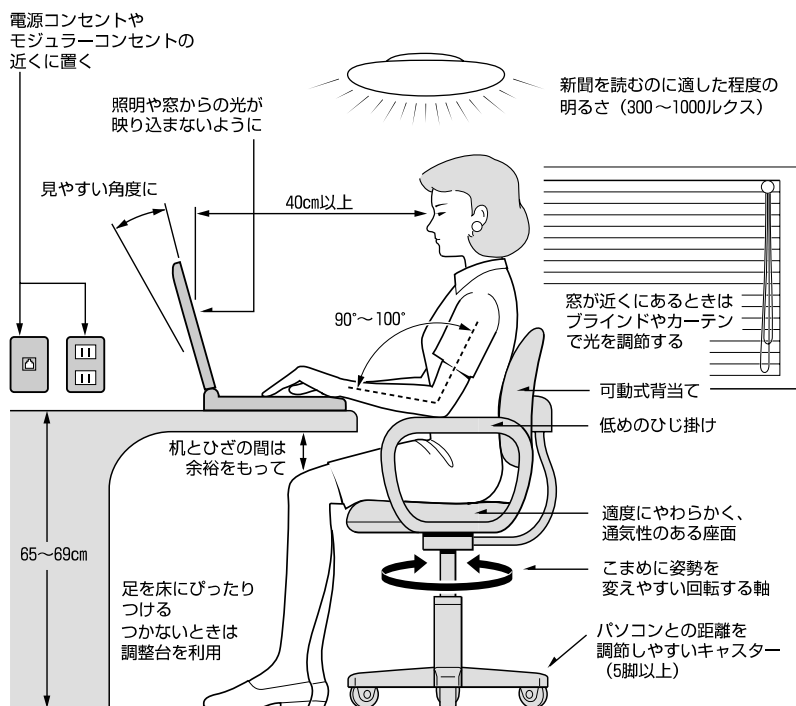
接続しよう

パソコンの置き場所を決めてから、ACアダプターとバッテリーパックを接続しましょう。

- ※ヒント** ● ACアダプター
コンセントの交流電源を直流電源に変換してパソコンに供給します。

置き場所や姿勢について

パソコンを使う場所によっては、パソコンに思わぬトラブルを起こす可能性があります。パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所と姿勢について知っておきましょう。



参照：日本人間工学会 ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン (1998年 労働科学研究所発行)

- ・パソコンのディスプレイは、体の正面に設置し、見やすい角度に調節する。
- ・ディスプレイの照度、明るさと周囲の照明を適度に調節し、ディスプレイの反射を抑える。
- ・明るさやコントラストなど見やすいように調節する。
- ・キーボードやマウス、ポインティングパッドを使うときは、手首とひじは水平になるような位置を保つ。
- ・パソコンの作業時間は、1日に最大6時間を目安とし、1時間ごとに10～15分の休息をとる。
- ・キーボードは本などで使いやすい角度に調節する。
- ・周辺機器を接続しても余裕のある、十分な作業空間を確保する。
- ・不自然な姿勢を避け、ときどき姿勢を変える。

警告

- ・湿気やほこりの多い場所での使用について
浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気が多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。本体内部にほこりが溜まることによって、精密部品の冷却を妨げ、故障ややけどの原因になります。
- ・ほこりの除去について
パソコンの周囲は、ほこりを吸わないように、こまめに清掃してください。パソコンの冷却用ファンユニットが目詰まりをおこし、過熱、発煙や故障の原因になります。
- ・通気孔について
本体底面がふさがりやすい布、じゅうたんなどの上には置かないでください。また、本体側面にものを置いたり、立てかけたりしないでください。本体内部への通気が損なわれ、発煙、発火ややけどの原因になります。

注意

- ・不安定な場所での使用について
傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをすることがあります。

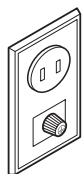
重要

- パソコン使用中は底面が熱くなります。設置場所によっては、長期間使用することで机などの塗装が変色する場合があります。

接続しよう

コンセントの位置を確認しよう

次のコンセント類が、パソコンを設置する場所にあるか、ご確認ください。コンセント類とパソコンを接続するケーブルが届く場所にパソコンの位置を決めてください。



電源コンセント 1 個

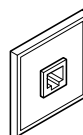
プリンターなど周辺機器を接続する場合は、さらにその個数分必要です。

アース端子 1 個 (テレビ機能付きモデルのみ)

地上デジタルチューナーユニットの FG 端子とアース端子をアース線で接続するときに必要です。

参照

アース端子の接続方法 → 『地上デジタルチューナーユニット取扱説明書』

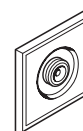


モジュラーコンセント 1 個

モデムを使ってインターネットに接続するときに必要です。

参照

モジュラーケーブルの接続方法 → 「モデムを使うには」 (P.42)



アンテナ端子 1 個 (テレビ機能付きモデルのみ)

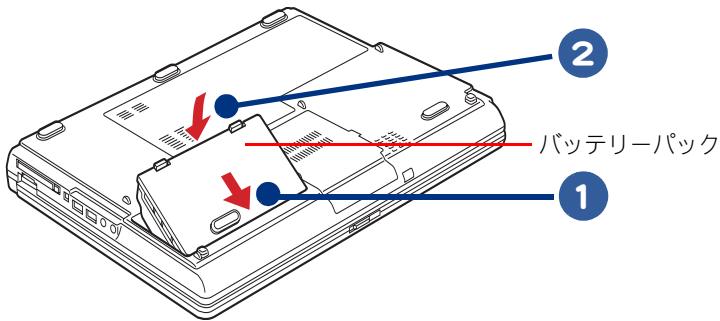
テレビを見るときに必要です。

参照

テレビアンテナへの接続方法 → 「アンテナ線と接続する」 (P.44)

1 パソコンを裏返し、バッテリーパックのツメの部分差し込む

2 バッテリーパックを「カチッ」と音がするまで差し込む



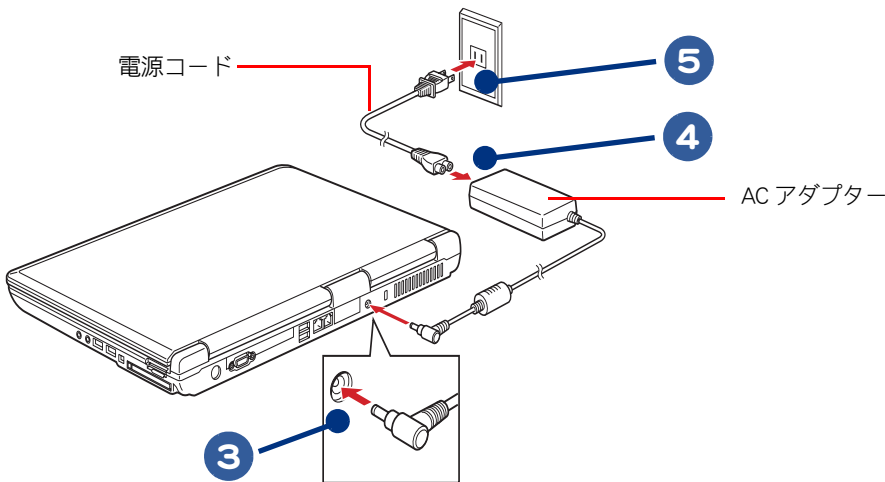
重要

- バッテリーパックを取り付けないと、パソコンの設置が不安定になります。ご使用の際には、必ずバッテリーパックを取り付けてください。
- バッテリーパックを取り付ける際は、「カチッ」と音がするまで、矢印方向にバッテリーパックを押し込んでください。完全に取り付けていないと、持ち運び時にバッテリーパックが外れる可能性があります。
- バッテリーパックを取り付けずに長期間使用すると、バッテリーパックの放電が進み、その後充電するときに充電が始まるまでに数時間かかったり、充電できる容量が少なくなりバッテリー動作時間が短くなります。また、さらに放電が進み、放電しきってしまうと、そのバッテリーパックは使用できなくなることがあります。ご使用の際には、必ずバッテリーパックを取り付けてください。

3 ACアダプターを、パソコンの電源コネクタに差し込む

4 電源コードを、ACアダプターに差し込む

5 電源コードのプラグを、コンセントに差し込む



警告

・ 付属品の使用について

ACアダプター、バッテリーパックは同梱のものを使用してください。同梱のもの以外を使用すると、電圧、最大出力電流、および+-の極性が異なることがあるため、火災の原因になります。

・ タコ足配線

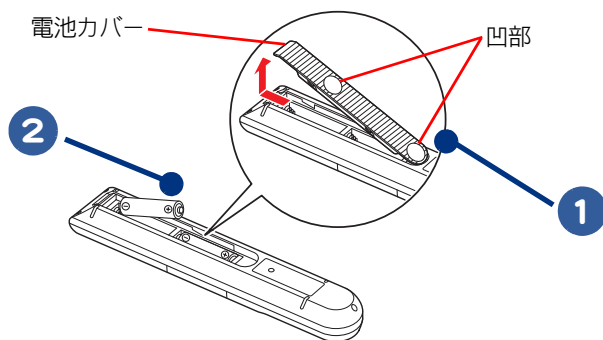
同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。

リモコンに電池を入れよう

テレビ機能付きモデルにのみ、リモコンが同梱されています。
リモコンに電池を入れましょう。

1 電池カバーの凹部を指で押さえながら、矢印方向にスライドさせて開ける

2 プラス (+)、マイナス (-) を確認して、単 3 形のアルカリ乾電池を 2 本入れる



3 電池カバーを閉める

警告

- 電池は次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因となります。
- 電池の+、-を正しく入れる。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解、加熱したりしない。
- 指定以外の電池は使用しない。
- 電池の+、一部に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない。
- 電池を金属製のピンセットなどでつかまない。
- 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
- 電池を保管する場合は、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないで電池を保管すると、端子間どうしが接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。
- 電池は、幼児の手の届かぬところに保管してください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、気道を確保しながら直ちに医師にご相談ください。

注意

- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り外してください。取り外さないと、液漏れによりやけどをしたり、リモコンが故障するおそれがあります。

重要

- リモコン送信部と受信部の位置により、操作範囲が変わります。正面の場合は5m以内、左右15°ずれる場合は3m以内です。ただし、直射日光があたるなど、周囲環境によっては、操作範囲が狭くなる場合があります。
- 必ず指定の乾電池を使用してください。ニッカド電池など、電圧の異なるほかの電池は使用しないでください。故障するおそれがあります。
- 電池を交換するときは、2本とも新しい電池と交換してください。古い電池と新しい電池をあわせて使用しないでください。
- リモコンの電池寿命は、通常約2年（アルカリ乾電池使用時）です。なお、使用頻度が高い場合、電池寿命は短くなります。
- 同梱品の乾電池は動作確認用です。電池寿命は保証できません。

ヒント

- 動作可能領域でもリモコンをうまく操作できない場合、電池残量がわずかになっている可能性があります。乾電池を交換してみてください。

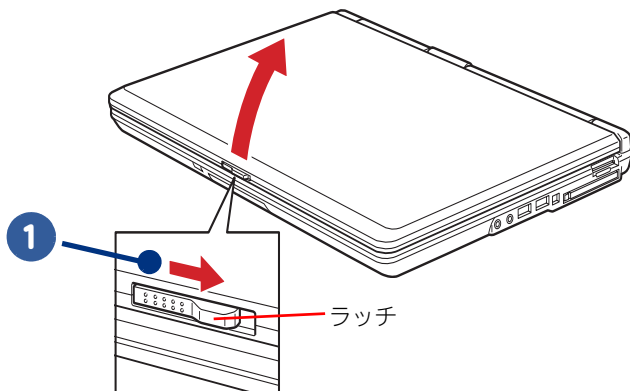
参照

リモコンの使い方について→「リモコン」(P.28)

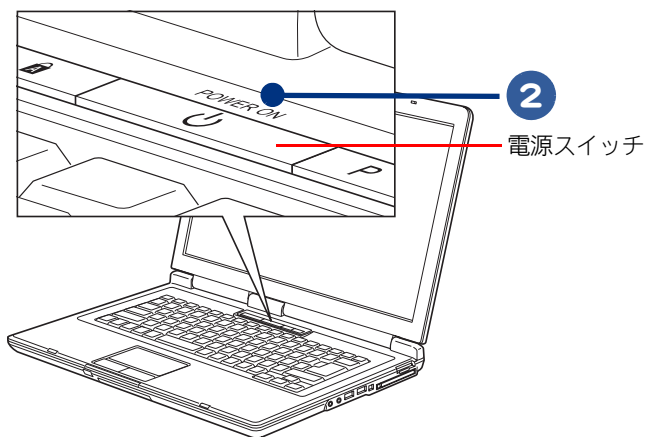
電源を入れよう

ここまででパソコンの電源を入れる準備ができました。
次に、液晶ディスプレイを開き電源を入れるまでの操作を説明します。

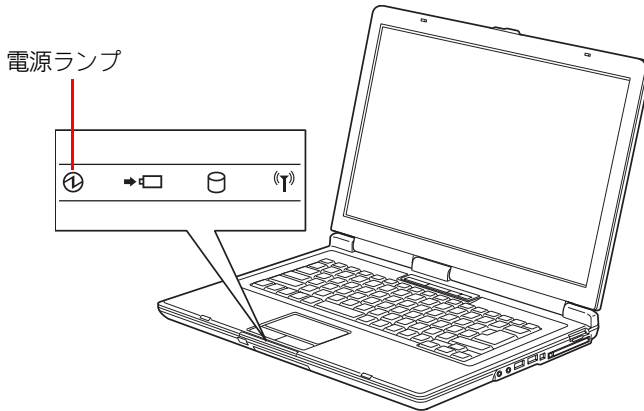
1 ラッチを矢印の方向にスライドして、液晶ディスプレイを開く



2 電源スイッチを押す



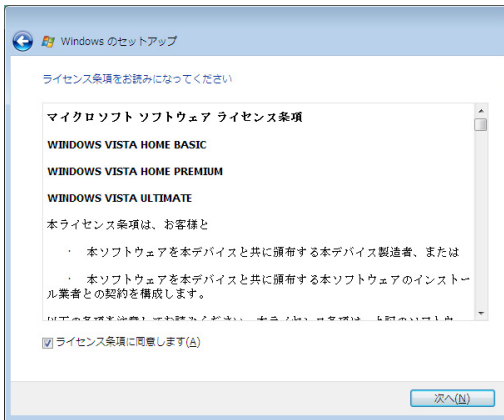
3 電源ランプが点灯したことを確認する



参照 → 電源ランプについて→「インジケータランプの見方」(P.22)

4 次の画面が表示されるまで待つ

[Windows のセットアップ]が表示されます。



重要 ● 電源スイッチを操作してからこの画面が表示されるまで、液晶ディスプレイを閉じないでください。

このあとライセンス条項に同意し Windows を使えるようにします。『パソコン使用編』1章の「使用許諾契約に同意しよう」をご参照ください。



2

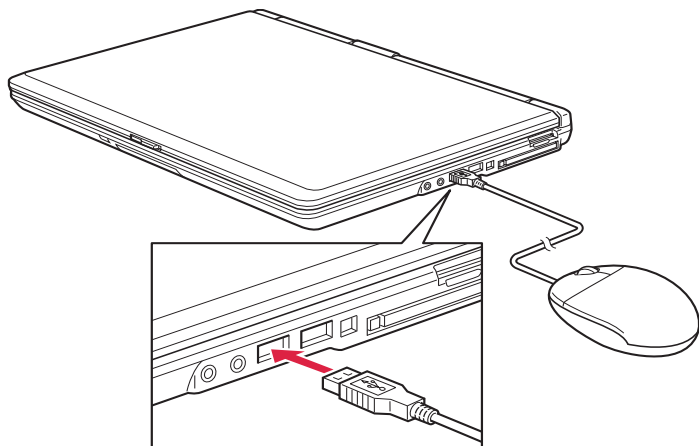
2章 いろいろな使い方をするために

ここでは、バッテリーパックの使い方やインターネットをするための準備など、パソコンのいろいろな使い方について説明します。

- >> ・マウスを使いたい方は (P.38)
- >> ・コンセントのない場所でパソコンを使いたい方は (P.39)
- >> ・インターネットを始めたい方は (P.42)
- >> ・テレビを見たい方は (テレビ機能付きモデルのみ) (P.44)
- >> ・ほかの周辺機器を使うときは (P.47)
- >> ・ディスクを使うときは (P.48)
- >> ・メモリーボードを取り付けるときは (P.51)

マウスを使いたい方は

パソコンの背面、または右側面の USB コネクタ-のどれかに接続してください。マウスを接続しない場合は、ポインティングパッドで Windows を操作します。



※ヒント ● USB コネクタ-は、4 つあります。いずれに接続しても動作は同じです。

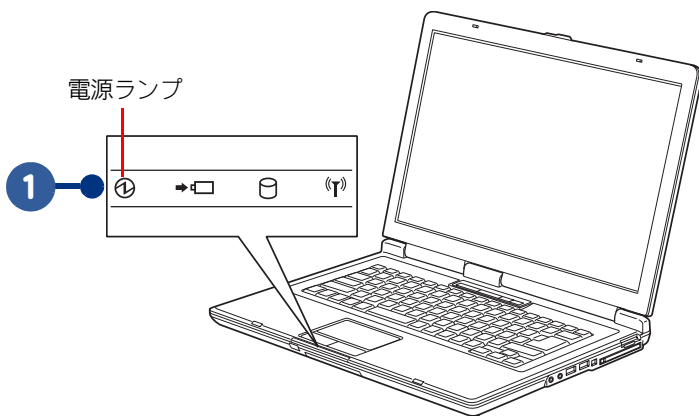
参照 → USB コネクタ-の位置 → 「パソコン背面・右側面」(P.22)

コンセントのない場所でパソコンを使いたい方は

パソコンに充電したバッテリーパックを取り付けると、コンセントがない場所でもパソコンを使うことができます。また、充電したバッテリーパックを取り付けておけば、停電したときにパソコンの電源が切れることなく対応することができます。

バッテリーパックの取り付け方

1 電源ランプが消えていることを確認する



重要 ● 電源ランプが点灯しているときはパソコンの電源が入っています。必ずパソコンの電源を切って、電源ランプが消えていることを確認してからバッテリーパックを取り付けてください。

ヒント ● 電源ランプは液晶ディスプレイを閉めた状態でも確認できます。

2 液晶ディスプレイを閉じる

3 バッテリーパックをパソコンに取り付ける

参照 → バッテリーパックの取り付けについて → 「接続しよう」(P.31)

バッテリーパックの充電のしかた

1 ACアダプターを接続する

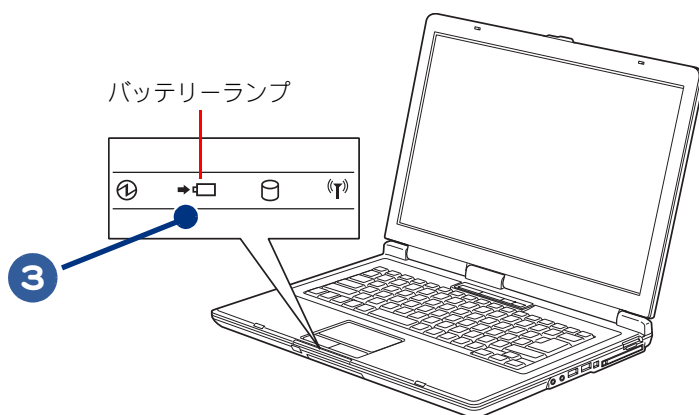
警告 ・バッテリーパックは、必ず本パソコンに取り付けて充電してください。ほかの方法では、電圧、充電時間などが異なる場合があります。破裂・発火などの原因になることがあります。

参照 → ACアダプターの接続について → 「接続しよう」(P.31)

2 液晶ディスプレイを開ける

3 バッテリーランプが点灯していることを確認する

充電が始まります。
バッテリーランプが消えたらバッテリーパックの充電は完了です。

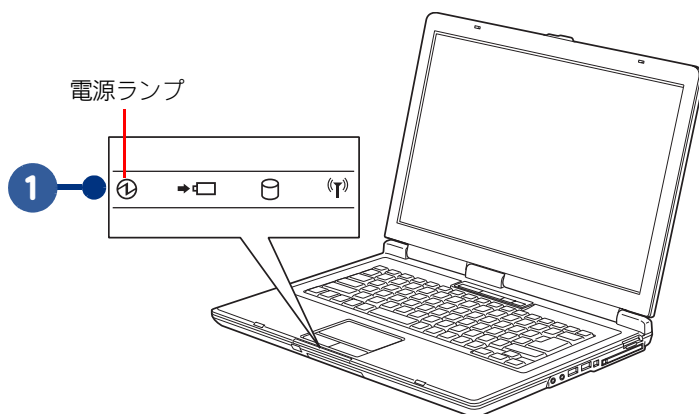


※ヒント ● バッテリーランプは液晶ディスプレイを閉めた状態でも確認できます。また、バッテリーパックの充電は、液晶ディスプレイを閉めた状態でも行えます。

参照 → 詳しくは→ 『パソコン応用編』1章の「バッテリーの使い方」

バッテリーパックの取り外し方

1 電源ランプが消えていることを確認する

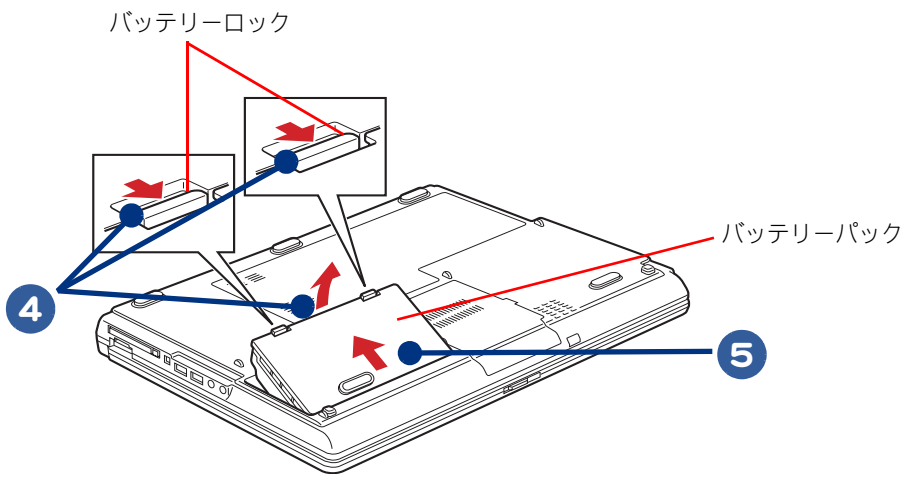


▲重要 ● 電源ランプが点灯しているときはパソコンの電源が入っています。必ずパソコンの電源を切って、電源コードのプラグをコンセントから抜き、電源ランプが消えていることを確認してからバッテリーパックを取り外してください。

※ヒント ● 電源ランプは液晶ディスプレイを閉めた状態でも確認できます。



- ② 液晶ディスプレイを閉じる
- ③ パソコンを裏返す
- ④ バッテリーロック (2箇所) を指先で押しながら、持ち上げる
- ⑤ バッテリーパックのツメの部分を取り外す



2
いろいろな使い方をするために

インターネットを始めたい方は

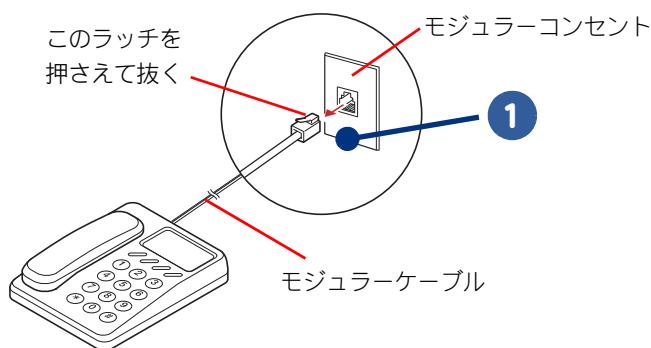
ここでは、モデムを使ってインターネットを始める方法を例に説明します。モデム以外の方法でインターネットを始める方は、『インターネット編』をご参照ください。

モデムを使うには

モデムを使ってインターネットを始めるためには、次のようにモジュラーケーブルを接続してください。

警告 ・雷が鳴っているときは、パソコンの使用および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

1 お使いの電話機につながっているモジュラーケーブルを、モジュラーコンセントから抜く



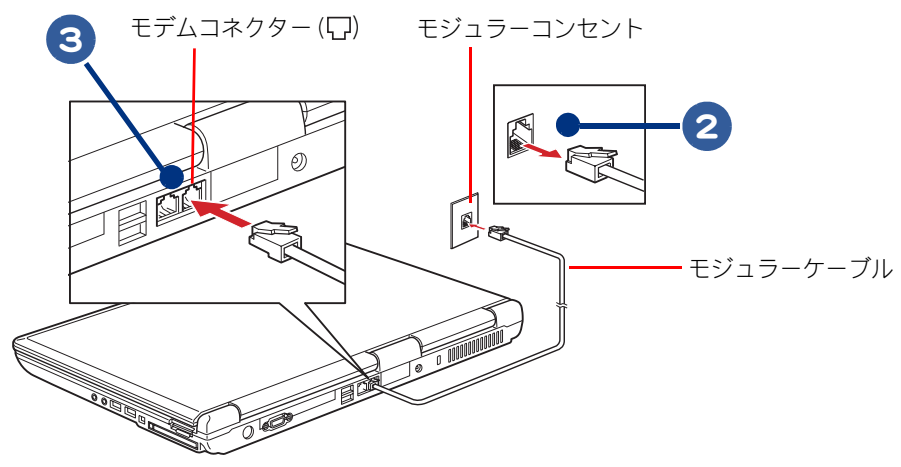
- 重要**
- モジュラーケーブルには脱落防止のラッチが付いています。モジュラーケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながらモジュラーコンセントから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、モジュラーケーブルが断線したり、モジュラーコンセントを破損するなどのおそれがあります。
 - 各ケーブルの購入について→パソコン周辺機器の販売店にてお買い求めください。

2 モジュラーケーブルの片側を、モジュラーコンセントに「カチッ」と音がするまで差し込む



3 モジュラーケーブルの反対側を、パソコンのモデムコネクタに「カチッ」と音がするまで差し込む

LAN コネクタに接続しないように、必ずマーク (□) を確認して接続してください。



2
いろいろな使い方をするために

注意 ・モジュラーケーブルの接続について
モジュラーケーブルは、2線式をご使用ください。故障の原因になります。2線式以外のケーブルの使用により発生した不具合については保証いたしません。

- ※ヒント**
- 接続する前に、お使いになっている電話機の種類をご確認ください。お使いになっている電話機がホームテレホンやビジネスホン（内線）の場合、接続しても正常にインターネットを使うことができません。この場合は、NTTにご相談ください。
 - モジュラーコンセントの形状がイラストと異なる場合は、モジュラーコンセントを変更する必要があります。詳しくは、NTTにご相談ください。
 - モジュラーコンセントにモジュラーケーブルとパソコンを接続しているときは、電話機を使うことができません。電話機を使うときは、モジュラーコンセントからモジュラーケーブルとパソコンを取り外し、電話機を取り付ける必要があります。

インターネットを始めるためには、ほかにも必要な手続きが残っています。インターネットの始め方については、『インターネット編』をご参照ください。

テレビを見たい方は(テレビ機能付きモデルのみ)

このパソコンでテレビを見るには、アンテナ線、地上デジタルチューナーユニットとパソコンを接続します。

ここでは、アンテナ線を接続する方法などについて説明します。地上デジタルチューナーユニットの接続方法や、チャンネル設定などのテレビを見る詳しい操作は、『地上デジタルチューナーユニット取扱説明書』と『エンターテインメント編』をご参照ください。



警告 ・雷が鳴っているときは、パソコンの使用、アンテナ線の接続および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

アンテナ線と接続する

同梱の地上デジタルチューナーユニットとアンテナ線を接続するには、次の方法があります。地上デジタルチューナーユニットとパソコンを置く部屋やほかの家電製品を考慮し、接続しましょう。アンテナ線の形状によって必要なものが異なります。市販のF型コネクター一体型アンテナケーブル、F型コネクターアダプターを使ってデジタルチューナーユニットと接続します。



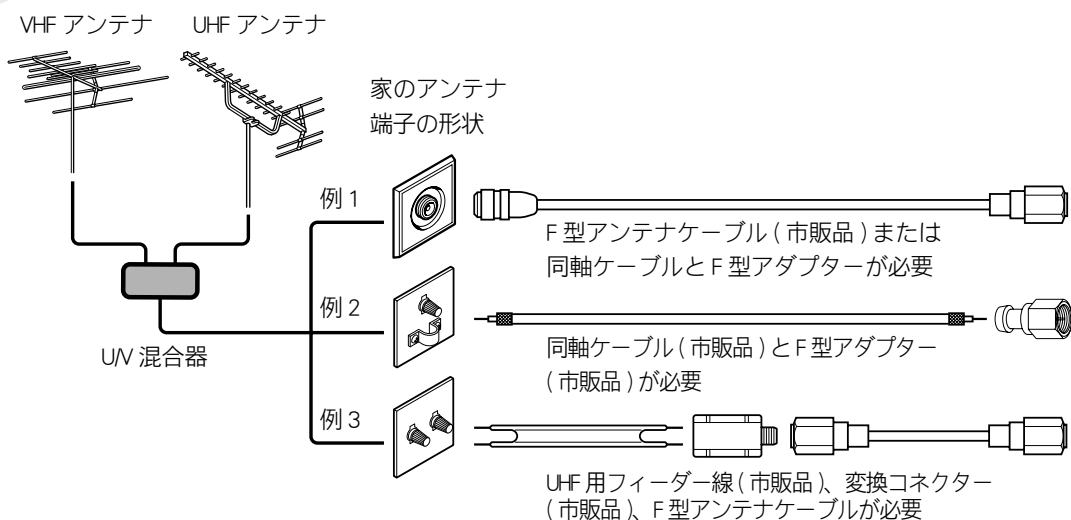
- 市販のケーブルなどは、パソコンショップなどでお買い求めください。
- イラストは、アンテナ端子、アンテナケーブルの形状を説明するためのイメージです。



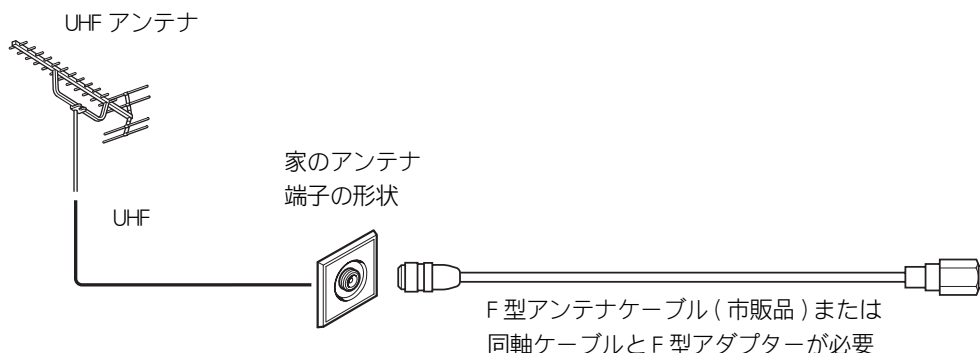
- 地上デジタルチューナーユニットは、地上デジタル放送対応のUHFアンテナのみに対応しています。それ以外のアンテナには対応していません。
- 地上デジタル放送を受信するためには、地上デジタル送信局に向けてUHFアンテナを設置する必要があります。地上アナログ放送対応のUHFアンテナでは、受信できない場合があります。
- 受信障害がある環境では、放送エリア内でも受信できない場合があります。アンテナの調整やブースターの取り付けなどは、パソコンショップなどにお問い合わせください。

VHF/UHF 混合の場合

アンテナ端子が1つのとき



■ UHF のみの場合



■ VHF のみの場合

VHF アンテナだけの場合は、地上デジタル放送を視聴できません。

■ CATV の場合

CATV から受信する場合は、CATV 業者との契約が必要です。伝送方式や接続については CATV 業者にお問い合わせください。

※ヒント ● CATV から地上デジタル放送を視聴するには、CATV 局が地上デジタル放送に対応している必要があります。

地上デジタル放送の主な伝送方式

伝送方式	特徴	本パソコンでの受信
トランスモジュレーション方式	放送信号を CATV 局の独自の方式に変更して再送信する方式。	×
同一周波数パススルー方式	放送信号をそのまま再送信する方式。	○
周波数変換パススルー方式	放送信号の周波数などを変換して CATV 局から再送信する方式。	○

地上デジタルチューナーユニットにアンテナ線を接続する

このあと地上デジタルチューナーユニットにアンテナを接続し、地上デジタルチューナーユニットとパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。詳しい接続方法は、『地上デジタルチューナーユニット取扱説明書』をご参照ください。

重要 ● 地上デジタルチューナーユニットは、同梱のパソコン本体との組み合わせでのみご使用ください。誤って他の製品でご使用されますと、同梱のパソコンで動作させることができなくなる場合があります。また、他のパソコンとの組み合わせでの動作は、保障いたしません。

B-CAS カードを取り付ける

地上デジタル放送は、B-CAS カードを取り付けないと視聴できません。

- 重要** ● パソコンと地上デジタルチューナーユニットの電源を切ってから接続してください。
- 同梱の B-CAS カードは地上デジタル放送専用カードです。BS/CS110 の視聴と有料放送の契約はできません。
- B-CAS カードは、取り外さないでください。取り外す場合はパソコンと地上デジタルチューナーユニットの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた状態で行ってください。

1 地上デジタルチューナーユニットに B-CAS カードを取り付ける

参照 → 地上デジタルチューナーユニットに B-CAS カードを取り付ける方法について → 『地上デジタルチューナーユニット取扱説明書』

2 B-CAS カードを登録する

B-CAS カードに添付されている説明書を読み、登録はがきに必要事項を記入して投函してください。

- 重要** ● B-CAS カードは、地上デジタル放送を視聴していただくために、お客様へ貸与されたカードです。このカードの所有権は(株)ピーエス・コンディショナル アクセス システムズに帰属します。
- B-CAS カードを破損・紛失した場合は、B-CAS カスタマーセンターへご連絡ください。お客様の責任で破損、故障、紛失などが発生した場合は、再発行費用がかかります。

電話回線をモデムに接続する

地上デジタル放送では、電話回線やインターネットを使って双方向サービスに関する情報を送信します。双方向サービスを利用する場合は、必ず電話回線をモデムに接続し、またインターネット環境をご利用ください。

- 重要** ● インターネットの接続に ADSL などの LAN 回線を使用している場合は、LAN コネクターに LAN ケーブルを接続してください。この場合も必ず電話回線をモデムに接続してください。
- 電話回線やインターネットの通信料金は、お客様の負担になります。

■電話回線の接続について

地上デジタル放送は、電話回線を使った視聴者参加番組があります。NTT の 2 線式公衆電話回線で、プッシュ式またはダイヤル式 (10 PPS/20 PPS) 電話機に接続されている電話線を分配して接続してください。不特定多数の人が利用する公衆電話や共同電話、および 2 線式電話回線と接続しない電話機 (携帯電話、PHS など) では利用できません。

■インターネットへの接続について

地上デジタル放送では、インターネットへの接続により多様な双方向データサービスを利用できます。このサービスを利用するには、常時接続の回線業者やプロバイダーとの契約が必要です。インターネットへの接続をしないと、双方向データサービスを利用できない場合があります。

ほかの周辺機器を使うときは

周辺機器の接続は、『パソコン応用編』の「3章 パソコンを拡張する」をご参照ください。次のような接続や取り付けなどが行えます。必要に応じて、あらかじめ印刷してください。

電子マニュアルは、デスクトップ画面の[電子マニュアル]アイコンをダブルクリックします。

設定などの詳しい説明は、周辺機器のマニュアルをご参照ください。

- ・ プリンターを接続する
- ・ USB 機器を接続する
- ・ IEEE1394 機器を接続する
- ・ LAN を接続する
- ・ PC カードを使う
- ・ メモリーカードを使う
- ・ ディスプレイを接続する
- ・ ヘッドホン、マイクを接続する
- ・ その他の周辺機器を接続する

重要

● 周辺機器を接続する前に、Windows のセットアップを完了してください。周辺機器を接続してから Windows のセットアップを行うと、正しくセットアップできない場合があります。

参照 → Windows のセットアップについて → 『パソコン使用編』1章の「使用許諾契約に同意しよう」

● 接続するときは、パソコンと周辺機器の電源をあらかじめ切ってください。

※ヒント

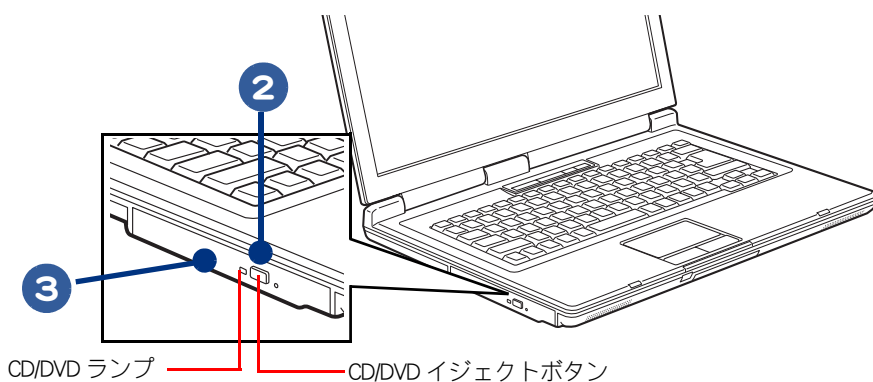
● 次のプリンタードライバーはプレインストールされています。プリンターを接続すれば、使用できます。一括インストールしたときには、これらのドライバーはインストールされません。プリンターに付属のドライバーをインストールしてください。

- ・ EPSON (PM-G850、PM-D870、PX-A720、PM-A820、PM-A920、PM-A970、PX-G930)
- ・ Canon (MP810、MP600、MP510、MP460、iP4300、iP3300、iP1700)

ディスクを使うときは

CD/DVD ドライブのディスクの入れ方／取り出し方

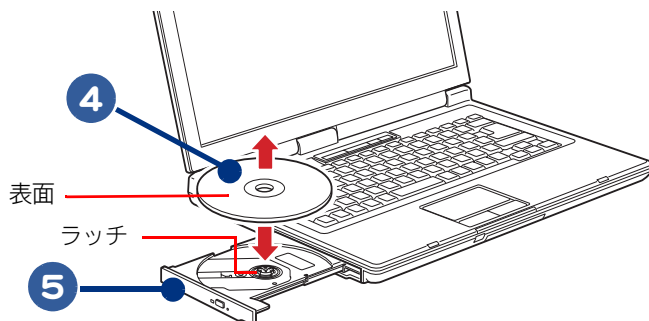
- 1 CD/DVD ランプが消灯し、CD/DVD ドライブがアクセスしていないことを確認する
- 2 CD/DVD イジェクトボタンを押す
- 3 少しトレイが出てくるので手で引き出す



- 重要**
- CD、DVD へのアクセス中は、トレイを出さないでください。ドライブまたはディスクが壊れることがあります。
 - トレイを出し入れするときに、トレイを無理に引き出ししたり押し込んだりしないでください。ドライブが壊れることがあります。また、ディスクをセットしたり取り出すとき以外は、トレイを引き出さないでください。

参照 → 使用できるディスクの種類 → 「ドライブの仕様」(P.56)

- 4 ディスクの文字などが書かれている面(表面)を上に向け、カチッと音がするまでトレイに入れる(または取り出す)
- 5 「カチッ」とロックするまでトレイを押して閉める



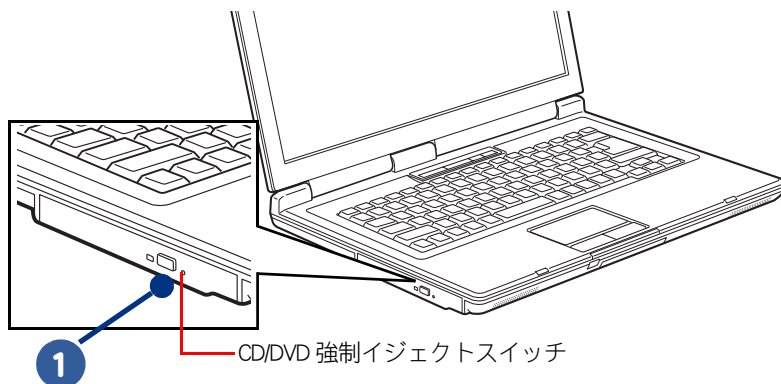
- 重要**
- 割れたり、変形したりしたディスクは入れないでください。故障の原因になります。
 - ディスクのセンター穴をラッチにはめずにトレイを開めると、ディスクがトレイ口に入って取れなくなることがあります。
 - 勢いよくトレイを押すと、ドライブの故障の原因になりますので、ゆっくりと押してください。

- ヒント**
- ディスクに自動起動のファイルがないときは、ディスクの再生が自動に行われません。

ディスクの強制取り出し

CD/DVD イジェクトボタンを押してもトレイが開かないとき、細いピンなどを差し込んでドライブを開けることができます。

1 細いピンなどでCD/DVD 強制イジェクトスイッチを押す

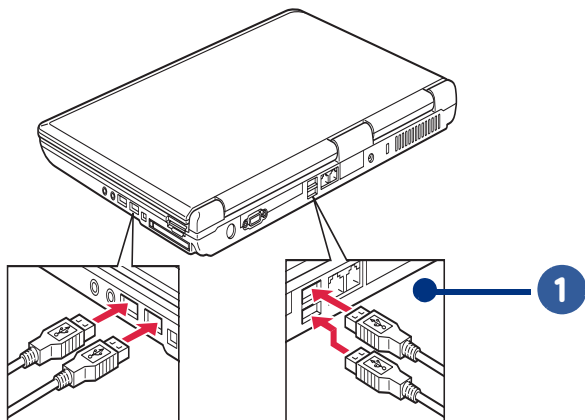


- 重要**
- 通常はCD/DVD 強制イジェクトスイッチは使わないでください。ただし、CD/DVD イジェクトボタンを押してもトレイが出ないときは、CD/DVD 強制イジェクトスイッチに細いピンなどを差し込んで取り出してください。

FD の入れ方／取り出し方

ここでは、外付けのUSB FDD (オプション) の接続方法について説明します。

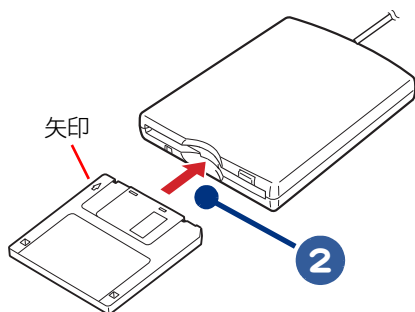
1 パソコン背面または、右側面の USB コネクターのどれかに、FDD の USB ケーブルを接続する



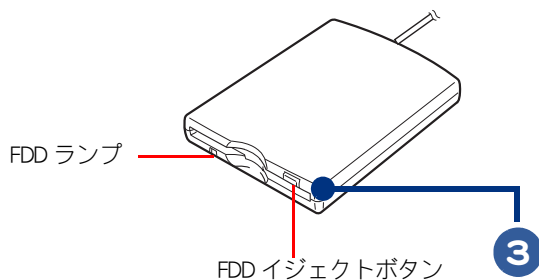
- 重要**
- コネクタには上下の向きがあります。コネクタの形を確認して取り付けてください。誤った向きで無理に押し込むと、コネクタ破損の原因になります。
 - FDD は上下を逆にしないでください。
 - FDD は AC アダプターから 30cm 以上、またパソコンからはなるべく離してご使用ください。
 - FDD を取り外すときは、FDD に FD が入っていないことをご確認ください。FD が壊れることがあります。

※ヒント ● USB コネクタは、4 つあります。いずれに接続しても動作は同じです。

2 FD のラベルをはる面（表面）を上に向け、矢印を FDD に向け、「カチッ」と音がするまで押し込む



3 FD を取り外すときは、FDD ランプが点灯していないことを確認して、FDD イジェクトボタンを押す



- 重要**
- FDD ランプの点灯、点滅中に FD を出し入れすると、FDD または FD が壊れることがあります。
 - パソコンの電源を切るときは、FD を取り出してからにしてください。FD を入れたまま電源を切ると、FD が壊れることがあります。また、FD を入れたまま電源を入れると、パソコンが起動しないことがあります。

参照 → FD のフォーマット方法について → 【入門編】3章の「フロッピーディスクをフォーマットしよう」

4 FD が出てくるので、FDD から取り出す

メモリーボードを取り付けるときは

メモリーボードを増設すると、メモリー容量を増やすことができます。最大 2048MB まで増設できます。

- ・ 増設作業時の注意点
- ・ メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた
- ・ 取り付け手順
- ・ 取り外し手順

重要 ● 仕様の異なるメモリーボードを取り付けしないでください。正常に動作しない場合があります。

参照 → メモリーボードの仕様について → 「メモリーボードの仕様」(P.58)

増設作業時の注意点

警告 ■ 周辺機器の増設や接続

周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックが付いているときはバッテリーパックを外してください。マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。

■ カバーの取り外し

- ・ メモリーを増設する場合などにカバーを取り外すときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には、通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。またバッテリーパックを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。
- ・ 内部にネジなどの異物を入れないようにしてください。発煙、発火の原因になります。
- ・ パソコンを起動するときは、必ずカバーを閉じてから起動してください。
- ・ メモリーボードソケット以外には触れないでください。

注意 ■ パソコン内部が冷えるまで待つ

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。約 30 分、時間を置いてから行ってください。やけどの原因になります。

■ 綿手袋を着用する

パソコン内部に触れたり、メモリーボードに触れるときは綿手袋を着用してください。素手で触れると故障の原因になります。また、手にけがをおうおそれがあります。

注意 ■ 体から静電気を逃がしておく

パソコンやメモリーボードは精密機器です。わずかな静電気も故障の原因になります。あらかじめ金属に触れるなどして、体から静電気を逃がしておいてください。

■ メモリーボードに力を加えない

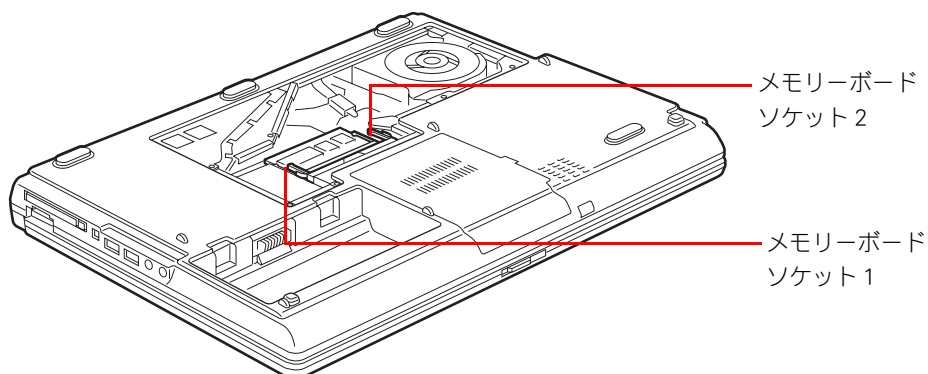
メモリーボードは精密機器です。わずかな力が加わるだけでも故障の原因になります。メモリーボードに応力が加わらないよう、取り扱いに注意してください。

メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた

メモリーボードは、この表の組み合わせを参考にして増設してください。

総メモリー容量 *1	メモリーボードソケット 1	メモリーボードソケット 2
512MB	512MB	—
1024MB	512MB	512MB
2048MB	1024MB	1024MB

* 1 Windows の [システムとメンテナンス] の [システム] でも確認できます。[コントロール パネル] → [システムとメンテナンス] をクリックし、[システム] をクリックすると、コンピュータの基本的な情報が表示されます。ただし、[システム] の [メモリ (RAM)] に表示される容量は、総メモリー容量からビデオメモリー容量分を引いた値です。



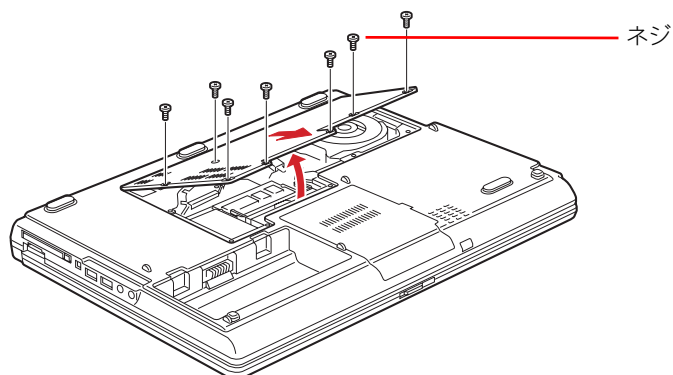
取り付け手順

1 パソコンの電源を切り、AC アダプターをパソコンから取り外す

2 パソコンからバッテリーパックを取り外す

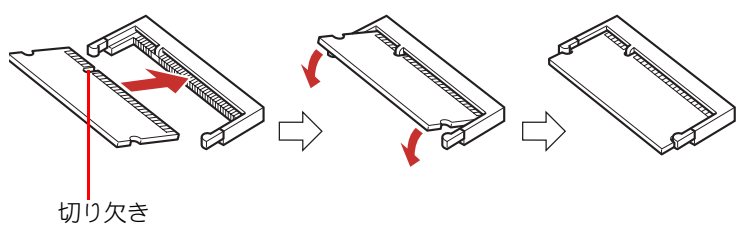
参照 → バッテリーパックの取り外しについて → 「バッテリーパックの取り外し方」(P.40)

3 ネジをゆるめ、カバーを取り外す



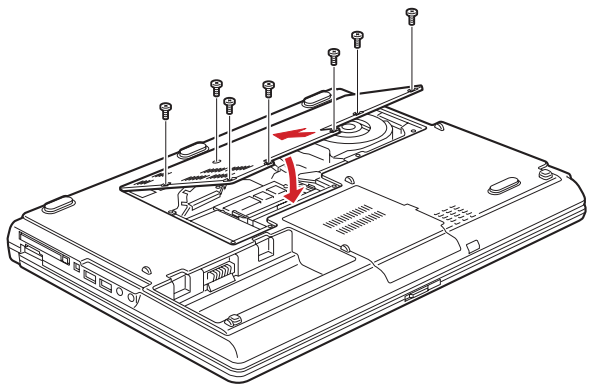


4 メモリーボードの切り欠きがソケットに合うようにしっかり取り付ける



重要 ●メモリーボードは確実に取り付けてください。メモリーが正しく増設されません。また、パソコン誤動作の原因となります。なお、誤った取り付け方をしたために発生した破損などについての修理は有償となります。あらかじめご了承ください。

5 カバーを取り付け、ネジを締める



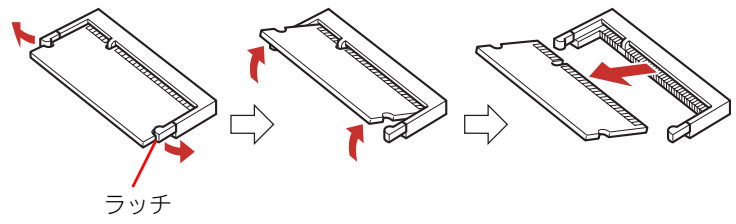
6 バッテリーパックを取り付ける

参照 → バッテリーパックの取り付けについて→「接続しよう」(P.31)

取り外し手順

1 取り付け手順 1～3 を行い、カバーを取り外す

2 ソケットの両端にあるラッチを外側に押し広げ、メモリーボードを取り外す



3 カバーを取り付け、ネジを締める

2
いろいろな使い方をするために





3

3章 技術情報

この章では、ドライブの仕様などについて説明します。

- ≫ ・ドライブの仕様 (P.56)
- ≫ ・メモリーボードの仕様 (P.58)
- ≫ ・バッテリーパックの仕様 (P.59)
- ≫ ・有寿命部品一覧 (P.60)
- ≫ ・オプション情報 (P.61)

ドライブの仕様

DVD スーパーマルチドライブ (DVD ± R 2層書き込み対応) の仕様

項 目	仕 様
読み込み速度 *1	CD-ROM、CD-R、CD-RW：最大 24 倍速 DVD-ROM：最大 8 倍速 DVD ± R：最大 8 倍速 DVD ± RW：最大 8 倍速 DVD ± R DL：最大 4 倍速 DVD-RAM：最大 5 倍速
書き込み速度	CD-R：最大 24 倍速 CD-RW：最大 16 倍速 DVD ± R：最大 8 倍速 DVD-RW：最大 6 倍速 DVD+RW：最大 8 倍速 DVD ± R DL：最大 4 倍速 DVD-RAM：最大 5 倍速
インタフェース	ATAPI
データ転送速度 (I/F 上)	最大 33.3MB / sec
平均ランダムアクセスタイム	DVD-ROM：180msec CD-ROM：150msec
バッファメモリー	2MB
ローディング方式	トレイローディング
読み込み可能ディスク	CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM、DVD-R/RW、DVD-RAM、DVD+R/RW、DVD-R DL(8.5GB)、DVD+R DL(8.5GB)
書き込み可能ディスク	CD-R/RW、DVD-R(4.7GB)、DVD-RW(Ver.1.2)、DVD-RAM(2.8GB / 4.7GB / 9.4GB)、DVD+R/RW、DVD-R DL(8.5GB)、DVD+R DL(8.5GB)
対応フォーマット	CD-DA(オーディオ CD)、CD-ROM(mode1、mode2)、CD-ROM XA(mode2 の Form1、Form2)、CD-R/RW、Photo CD(シングル / マルチセッション)、Video CD、CD Extra(CD+)、CD-TEXT、DVD-ROM、DVD-R(3.9GB / 4.7GB)、DVD-VIDEO、DVD-RW(Ver.1.2)、DVD-RAM(2.6GB / 4.7GB / 9.4GB)、DVD+R(4.7GB)、DVD-R DL(8.5GB)、DVD+R DL(8.5GB)、DVD+RW

項目	仕様
推奨ディスク	CD-R：太陽誘電製、三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 CD-RW：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD-R(4倍速)：三菱化学メディア製、松下電器製、太陽誘電製、TDK製、日立マクセル製 DVD-R(8倍速)：三菱化学メディア製、太陽誘電製、TDK製、日立マクセル製 DVD-R(16倍速)：三菱化学メディア製、太陽誘電製、TDK製、日立マクセル製 DVD-RW(2倍速)：三菱化学メディア製、ビクター製、日立マクセル製 DVD-RW(4倍速)：三菱化学メディア製、ビクター製、日立マクセル製 DVD-RW(6倍速)：三菱化学メディア製、ビクター製、日立マクセル製 DVD-RAM(3倍速)：松下電器製、日立マクセル製 DVD-RAM(5倍速)：松下電器製、日立マクセル製 DVD+R(4倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、TDK製、日立マクセル製 DVD+R(8倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、TDK製、日立マクセル製 DVD+R(16倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、TDK製、日立マクセル製 DVD+RW(4倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、TDK製、日立マクセル製 DVD+RW(8倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD-R DL(4倍速)：三菱化学メディア製 DVD-R DL(8倍速)：三菱化学メディア製 DVD+R DL(2.4倍速)：三菱化学メディア製、リコー製、日立マクセル製 DVD+R DL(8倍速)：三菱化学メディア製

* 1：ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

重要

- ディスクをドライブに入れた直後に、“Not Ready”など、準備ができていないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。このときはしばらくお待ちください。
- ディスクは、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
- 推奨ディスク以外のディスクを使用すると、正常に動作しないことがあります。
- ディスク以外の異物を入れないでください。コイン、クリップなどの金属物や、コーヒーなどの異物が混入すると、故障の原因になりますのでご注意ください。
- DVD+R DLのディスクへデータを書き込み、DVD+R DL未対応のドライブで読み込むと、書き込みしたデータが読み込めないことがあります。
- 本ドライブで記録したDVD±R DLのディスクは、他のドライブで読めないことがあります。
- DVD-R DLは、追記書き込みはできません。

※ ヒント

- DVD-R DL、DVD+R DLとは、片面2層(8.5GB)のディスクです。

メモリーボードの仕様

項目	仕様
容量	512MB/1024MB
パリティ	なし
DRAM タイプ	DDR2 SDRAM、PC2-4200
DIMM タイプ	SO-DIMM 200 ピン
電源電圧	1.8V

*** ヒント** ● メモリーボードの使用環境はパソコンと同じです。

バッテリーパックの仕様

項目	仕様
形名	PCF-AB8200
容量	4400mAh
出力電圧	11.1V
充放電回数	約 300 回
外形寸法	137mm(W) × 75mm(D) × 23.5mm(H)
質量	約 330g

有寿命部品一覧

パソコンの部品は、長期間使用しているうちに劣化、磨耗します。次の部品は、一定周期で交換の必要があります。ここで記載の寿命とは設計構造上の想定寿命であり、寿命を保証するものではありません。想定寿命を満たさない場合でも、無償修理期間を過ぎている場合の部品代は有償です。購入や交換については、お買い求め先にご連絡ください。なお、交換した部品は、パソコン購入時の部品と異なる場合があります。

品名	備考
HDD ユニット	* 1
DVD スーパーマルチドライブ	* 2
液晶ディスプレイ	* 1、3
キーボード	* 1
ファン	* 1
AC アダプター (形名：PCF-AP7800)	* 1、6
バッテリーパック (形名：PCF-AB8200)	* 4
リチウム電池	* 5
メインボード	* 1、6


- * 1：事務室で1日に8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は約5年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
- * 2：事務室で1日に2時間、1カ月で25日間、データの読み書きを想定した場合、寿命は約5年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
- * 3：明るさが工場出荷時の約1/2に低下したときを寿命とします。
- * 4：寿命は約300サイクルです。または、通常の事務環境で過放電せず定期的に完全放電した場合は、約1年以内です。過放電にしたり、負担のかかる使い方をすると、寿命は短くなります。
- * 5：寿命は約5年です。
- * 6：使用しているアルミ電解コンデンサーは寿命のある部品です。

オプション情報

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。

分類	品名	形名	備考
アクセサリ	バッテリーパック	PCF-AB8200	
	AC アダプター	PCF-AP7800	AC アダプターと電源コードのセット
ファイル装置	フロッピーディスク装置	PCT-UF2231A	USB インタフェース、3.5 型、3 モード *
		PCT-UF2231B	

* : Windows Vista では 2 モードでの利用となります。

 **重要** ● この一覧表以外のオプションについては、動作保証していません。



さくいん

A

AC アダプター 20

B

B-CAS 46

C

CATV 45

CD/DVD ドライブ 21

D

DVD スーパーマルチドライブ (DVD ± R 2 層書き込み対応) の仕様 56

U

UHF 44

V

VHF 44

あ

アナログディスプレイコネクタ 22

い

インターネット 42

え

液晶ディスプレイ 21

お

オプション情報 61

き

キーボード 21

機器銘板 20

キャプスロックランプ 23

く

クリックボタン 21

け

警告ラベル 14

こ

コンセント 31

さ

サブウーハー 21

し

CD/DVD 強制イジェクトスイッチ 49
重要なお知らせ 4

て

ディスクアクセスランプ 23

ディスクの入れ方／取り出し方 48

ディスクの強制取り出し 49

テレビを見る 44

電源コード 20

電源コネクタ 22

電源スイッチ 21

電源ランプ 22, 23

電源を入れる 34

電子マニュアル 1

伝送方式 45

電話回線 46

な

ナムロックランプ 23

は

パソコン 20

バッテリーパック 20, 21, 41

バッテリーパックの充電のしかた 39

バッテリーパックの仕様 59

バッテリーパックの取り付け方 39

バッテリーパックの取り外し方 40

バッテリーランプ 22, 23, 40

バッテリーロック 41

ほ

ポインティングパッド 21

保証書 4, 20

ま

マウス 20, 38

め

メモリーボード 51

メモリーボードソケット 52

メモリーボードの仕様 58

も

モジュラーケーブル 42, 43

モジュラーコンセント 42

モデム 42

モデムコネクタ 43

ゆ

有寿命部品一覧 60

ユニバーサルシリアルバス コネクター (USB コネクター) 22

ら

ラッチ 21, 34

り

リモコン 33

リモコン受信部 21

わ

ワイヤレス LAN ランプ 23

ワンタッチキーの機能 24

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。

それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

- ・ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
- ・ その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

Prius 取扱説明書 設置と配線編

初 版 2006 年 12 月

無断転載を禁止します。

落丁・乱丁の場合はお取り替えいたします。

株式会社 日立製作所 ユビキタスシステム事業部

〒 244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 292 番地
お問い合わせ先: 安心コールセンター 0120-885-596

© Hitachi, Ltd. 2006. All rights reserved.



このマニュアルは、再生紙を使用しています。

PN0T010P0-1